



3.11 東日本大震災は、山元町から多くを奪いました。
それから5年半 ...

あたらしい駅や復興住宅の風景を目にし、津波にさらわれたままに広がる
浜辺を歩く時、山元はいったいどんな町だったのだろうか、どんな歴史
を歩んできたのだろうか。それを知りたいという思いが、今まで以上に
こみ上げてきます。

震災は多くを奪いましたが、一方で「山元町」のことを教えてくれました。

一つは、東日本大震災復興事業に伴う発掘調査で分かった、古代の山
元の姿です。なかでも、合戦原の横穴墓群では、東北地方では珍しい
線刻壁画がみつきり、注目を集めました。

もう一つは、文化庁の要請で日本建築学会や日本建築家協会などの「文
化財ドクター派遣事業」によって調査され、修復助言がなされた、「大
條家ゆかりの茶室」です。

今回は、この二つのすごい歴史、古代、特に7世紀の合戦原遺跡と線
刻壁画、そして江戸の大條家ゆかりの茶室について、それぞれの専門の
先生をお招きして、お話を伺います。

日程 11月19日(土) 13:00~15:00

場所 山元町合戦原学堂
(宮城県亘理郡山元町高瀬字合戦原30-5)

定員 70名

参加費 500円(抹茶、お菓子付)

【講師】

佐古和枝さん：関西外国語大学教授(考古学)

永井康雄さん：山形大学教授(建築史学)

【コーディネーター】

清水ますみさん

学ぼう。山元町のすごい歴史

古代の線刻壁画と 江戸の大條家ゆかりの茶室



●佐古和枝（さこかずえ）

ーメッセージー

山元町で昨年発掘された古代の遺跡群、特に合戦原の横穴墓群や線刻壁画は、考古学界でも大きな発見として注目され、マスコミも賑わせました。なぜ、大きな発見なのか。遺跡から何が分かったのか。当時の山元はどんなところで、人々はどんな暮らしをしていたのか、皆さんと一緒に当時に思いをはせたいと思います。

ープロフィールー

鳥取県米子市出身

同志社大文学部卒、同大学院博士前期課程修了。日本考古学専攻。関西外国語大非常勤講師などを経て、2004年から同大学教授。長崎県文化財審議委員、特別史跡原の辻遺跡発掘調査指導委員、福岡県立歴史資料館評議委員、山陰遺跡ネットワーク会議代表など考古学の成果を広く一般に伝えるために、研究・執筆のかたわら、市民講座やイベントを多数企画・主宰。著作物も「考古学はたのしい」3巻（小学館）、「ようこそ考古学の世界へ」（中央公論新社）など、考古学を専門外の人達に楽しく、分かりやすく伝えるものが多い。島根県雲南市の創作市民演劇『異伝やマタノオロチ』の原作など、ユニークな著作もある。鳥取県妻木晩田遺跡の保存運動に取り組み、妻木晩田遺跡の普及・活用にむけた活動も続けている。



●永井康雄（ながいやすお）

ーメッセージー

大名の社交では茶の湯は大きな役目を果たしました。伊達家の代々の藩主も茶道を重んじたため、家臣たちにも広まりました。仙台城内や有力家臣の邸宅には茶室が建てられましたが、残念ながらほとんど残っておりません。山元町の茶室は大條家ゆかりのものという伝来経緯がはっきりしています。仙台藩に花開いた茶の湯文化を伝える最も貴重な建物について考えてみたいと思います。

ープロフィールー

1961年、埼玉県川口市生まれ。

東北大学大学院修了。博士（工学）。東北大学大学院准教授を経て、2010年から山形大学教授。専門は日本建築史。東日本大震災では、文化庁の文化財ドクター派遣事業の東北地方責任者として2700棟以上の歴史的建造物の被災調査・州復興技術支援を指揮した。宮城県文化財保護委員会、旧有備館及び庭園保存整備委員会、仙台城跡調査指導委員会、大崎市文化財保護委員会など多くの自治体で委員などを務める。



●問い合わせ：特定非営利活動法人ポラリス

[TEL]0223-36-7410

[MAIL]activities_polaris@yahoo.co.jp

●主催：特定非営利活動法人ポラリス

●助成：三菱重工みやぎ・ふくしまミニファンド

●協力：大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会

ゆかりの茶室にひかりを当てるっちゃGO 山元「いいっ茶」組

★すてきにはたらく・たのしむ・学ぶ★

私たちポラリスは、障害のある人自身が
自己選択・自己決定をして
地域ですてきな生き方・はたらき方ができるよう応援します。

特定非営利活動法人ポラリス



「学ぼう。山元町のすごい歴史」 ～古代の線刻壁画と大條家ゆかりの茶室～

日 時：2016年11月19日（土）13：00～15：00
場 所：合戦原学堂
企 画：NPO法人ポラリス
コーディネーター：清水ますみ
講 師：佐古和枝さん（関西外国語大学教授）専門：考古学
永井康雄さん（山形大学教授）専門：建築史学
お茶指導：北島すち子さん
展示資料：壁画展展示パネルなどを移動して展示
配布資料：アート展関連チラシ・資料
今回の関連資料
ポラリスリーフレット（会員募集文書入り）
参 加 者：87名

山元町の二つのすごい歴史、古代、特に7世紀の合戦原遺跡と線刻壁画、そして江戸の大條家ゆかりの茶室について、それぞれの専門の先生をお招きして勉強会を開催しました。また、地域の茶道家の協力ももらってのお茶会を同時開催し、地域住民や山元を訪れた方々が山元のことを語り合いながら交流する場を作りました。



学ぼう。山元町のすごい歴史 ～古代の線刻壁画と江戸の大條家ゆかりの茶室～

2016年11月19日(土) 13:00～ 山元町合戦原学堂

■テーマ

山元町には何もない、何もなくなつたと、無いもの探しするのではなく、あるもの自慢をしてみよう。

こんなにすごい歴史があるじゃないか。

なにがすごいのか、しっかり学んで、自覚して、

山元の町で元気に生きて行こう。

すごい歴史なら、それを町を元氣する材料にしよう。

■プログラム

13:00 挨拶

13:10 勉強会開始

13:20 古代の合戦原遺跡と線刻壁画 佐古和枝先生

13:50 江戸時代の大條家ゆかりの茶室 永井康雄先生

14:20 質疑・ディスカッション(会場)

14:35 まとめとメッセージ(佐古先生、永井先生)

14:45 終了挨拶

主催: 特定非営利活動法人ポラリス

助成: 三菱重工みやぎ・ふくしまミニファンド

協力: ・大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会

・ゆかりの茶室にひかりをあてるっちゃGO 山元「いいっ茶」組

～ゆかりの茶室にひかりをあてるっちゃGO 山元「いいっ茶」組では、
事務局ボランティアを募集しています！～

山元町の方でお手伝いをお願い出来る方は、以下にご連絡お願いします。

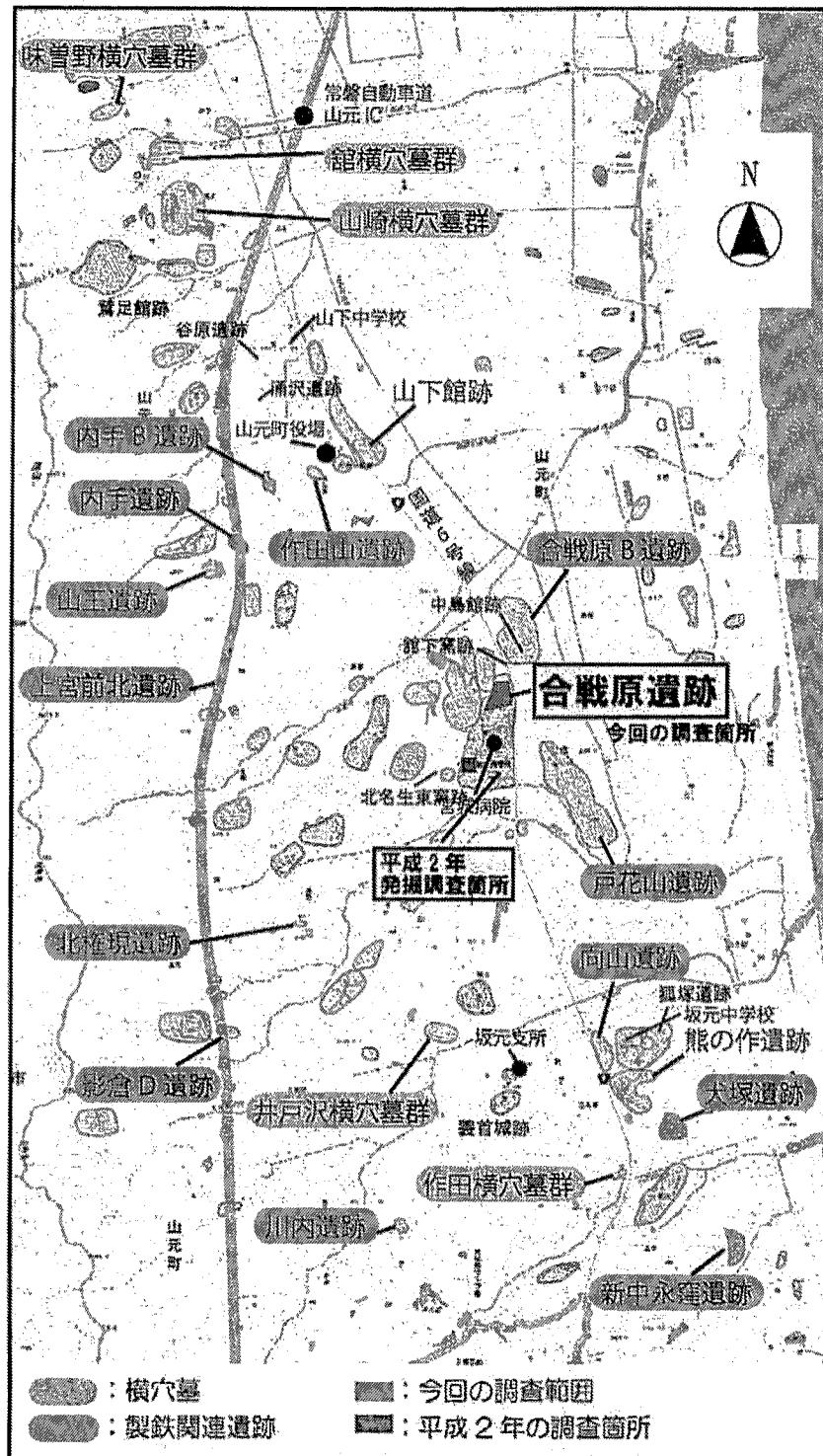
[Tel]090-2528-6107(清水)

[Mail]yamamoto.iicchagumi@gmail.com

古代からのメッセージ～合戦原遺跡が物語るもの

佐古 和枝

1. 震災復興事業にともなう遺跡の発掘調査



(合戦原遺跡第2回現地説明会資料H27年7月より)

復興事業に伴い発掘された町内の主な遺跡

谷原遺跡	縄文～中世	集落	縄文：中期から後期の土坑、古墳後期：竪穴住居、平安：掘立柱建物跡、溝跡、土坑、中世：掘立柱建物跡
中筋遺跡	弥生	水田	水田跡と津波痕
合戦原遺跡	古墳終末から奈良・平安	墓地・製鉄	横穴墓54、竪穴住居2、製鉄炉3、木炭窯20、焼成土坑・土坑60など
犬塚遺跡	飛鳥～奈良時代	集落・製鉄	竪穴住居17、製鉄炉4、木炭窯5、木炭焼成土坑24など
熊の作遺跡	飛鳥～平安 (7～9世紀)	役所関連 (巨理郡)	竪穴住居、掘立柱建物、堀跡、門跡、木簡11点、墨書土器(8世紀後半から9世紀前葉「大領」5、「子弟」1)、木製品(容器、機織り具、装飾品、祭祀具、櫓扇など)
向山遺跡	平安(9世紀)	製鉄	掘立柱建物5、竪穴住居8、建物内で鍛冶炉多数、鉄滓、羽口など
内手遺跡	奈良～平安	製鉄	炭窯8、鉄滓、古銭、須恵器
新中永窪遺跡	奈良～平安初 (8世紀～9世紀初頭)	集落・製鉄	竪穴住居7、製鉄炉(竪形炉)1、炭窯8、須恵器窯(8世紀中頃～後半)、須恵器工房、鍛冶工房、鉄製品、鉄滓、羽口など
上宮前北遺跡	平安(9世紀)	製鉄	製鉄炉(箱形炉)
湧沢遺跡	奈良～江戸	集落・製鉄	竪穴住居15、土器溜まり、鉄滓、八稜鏡
日向遺跡	古墳～中世	集落・製鉄	古墳後期の竪穴住居5、奈良・平安の竪穴住居7・掘立柱建物2・製鉄関連遺物、中世の屋敷跡(掘立柱建物47、柱穴列3、井戸4)
鷺足館遺跡	中世	山城	館跡
山下館跡	中世	山城	館跡
菰首城跡	江戸	城跡	二の丸跡地より田通の建物跡、通路跡、堀跡など

関 連 年 表

	年代	日本・世界の出来事	山元町の主な遺跡
旧石器時代			
縄文時代	草創期	16000 年前	・土器・弓矢の使用が始まる
	早期	12000 年前	
	前期	7000 年前	・気候が温暖化、海水面が上昇する
	中期	5500 年前	・三内丸山遺跡で大集落が営まれる
	後期	4500 年前	・黄河文明・エジプト文明・インダス文明
	晩期	3300 年前	・東日本で亀ヶ岡文化が栄える
弥生時代	2500 年前	・日本に稲作が伝わる ・邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る(239 年)	中筋遺跡(鷺足) 上台遺跡(真庭)
古墳時代	前期	1700 年前	・近畿地方に前方後円墳がつくられはじめる
	中期	1600 年前	
	後期	1500 年前	・仏教が伝わる(538 年)
	終末期 (飛鳥時代)	1400 年前	・大化の改新(645 年)
古代	奈良時代	1300 年前	・平城京 遷都(710 年) ・多賀城がつくられる(724 年)
	平安時代	1200 年前	・平安京 遷都(794 年) ・陸奥国大地震(869 年)
中世	鎌倉時代	800 年前	・源頼朝が鎌倉幕府を開く(1192 年)
	室町時代	600 年前	・足利尊氏が室町幕府を開く(1336 年) ・応仁の乱(1467 年)
	戦国時代	500 年前	・織田信長入京(1568 年) ・豊臣秀吉全国統一(1590 年)
近世	江戸時代	400 年前	・徳川家康、江戸幕府を開く(1603 年)

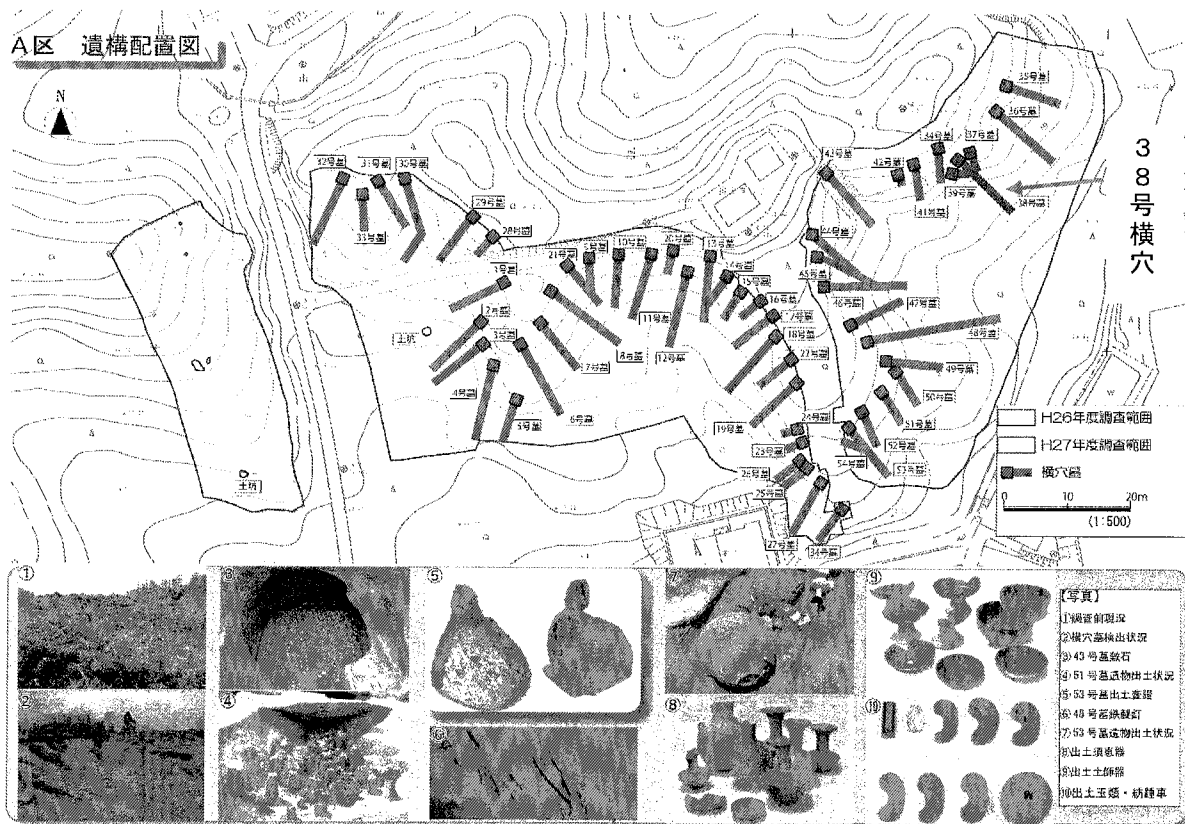
(犬塚遺跡現地説明会資料 H 27 年 7 月より)

2. 合戦原遺跡の横穴墓群

【時期】 7世紀～8世紀

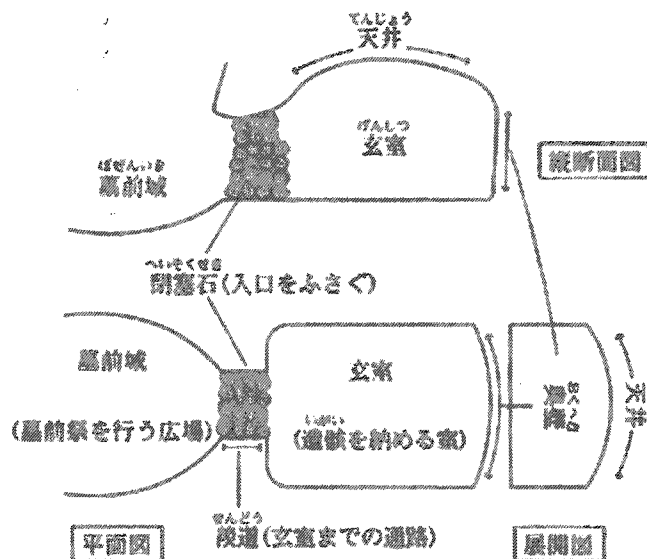
【内容】 横穴墓54基 最大規模の38号横穴墓の玄室に線刻壁画

主な出土品：金銅装大刀（38号横穴）、直刀、馬具類、メノウ製勾玉、水晶製切小玉、碧玉製管玉、石製紡錘車



◆横穴墓とは

- ・ 5世紀に北部九州（大分、熊本）で出現～古墳の横穴式石室の影響を受けて誕生
- ・ 6世紀後半に九州・本州各地で爆発的に造営～古墳も爆発的に造営される時期（群集墳）



3. 壁画のある古墳・横穴墓

【種類】 彩色、線刻、浮き彫り（熊本県の横穴墓のみ）

【分布】 熊本県～古墳（彩色、線刻）、横穴墓（線刻、浮き彫り＋彩色）

福岡県・大分県～古墳が中心、彩色が多い

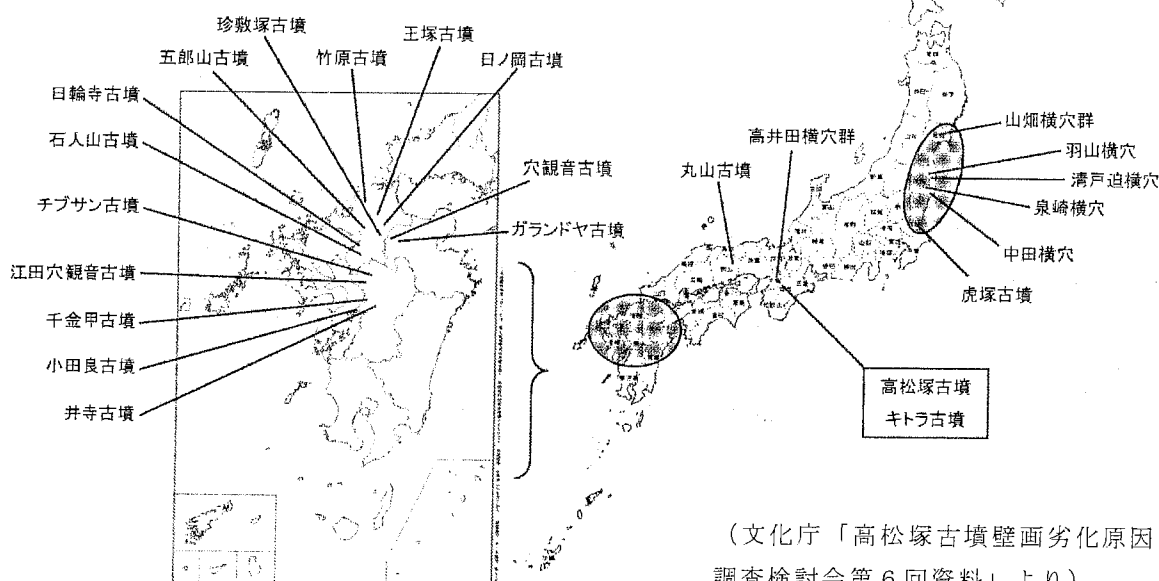
鳥取県～線刻50基、彩色2基 古墳が多い

大阪府・神奈川県・千葉県～横穴（線刻）

茨城県～古墳（彩色、線刻）、横穴（線刻）

福島県・宮城県～横穴（彩色、線刻）

壁画古墳のうち、装飾古墳は約600基が知られているが、その分布状況は大きな偏りがある。全体として、北九州と北関東・南東北に集中し、とくに熊本、福岡両県での分布が著しい。ついで茨城、福島に多く見られる。



◆『常陸国風土記』行方郡板来村（潮来）

昔、崇神天皇の御世に、東国の荒ぶる賊を平定しようとして、建借間（たけかしま）命を遣はされた。国栖（くず）の長である夜尺斯（やさかし）と夜筑斯（やつくし）は、穴を掘って小さな城を造り、そこに住んでゐた。官軍を見ると、こそこそと抵抗し、建借間命が兵を放って駆逐すると、賊は一斉に小城に逃げ帰って、門を固く閉じて立て籠もった。建借間命は計略を立て、勇敢な兵士を選んで山の凹所に潜ませ、武器を造って渚に並べ整え、舟を連ね、筏を編み、衣張りの笠を雲と翻し、旗を虹と靡かせ、天の鳥琴・天の鳥笛は波の音と調べ合わせて潮と流し、「杵島（きしま）の唱曲（うたぶり）」を七日七夜歌い踊って、遊び楽しんだ。この楽しい歌舞を聞いて、賊どもは、家族も男女も揃って出て来て、浜辺に群れて楽しみ笑った。建借間命は、騎兵に城を封鎖させ、背後から賊を襲って捕らえ、火を放って滅ぼ

した。

4. 奈良・平安時代の東北の製鉄遺跡

5. まちの文化資源としての遺跡

- ①地域史復元の研究資料
- ②歴史学習の場
- ③生涯学習の場
- ④市民活動の場、出会いの場
- ⑤地域の個性、アイデンティティの確認
- ⑥新たな地域像の創出～現在の市町村境を越えた地域のあり方
- ⑦まちのシンボル、一体感
- ⑧アメニティの向上～景観保全、緑地保全、癒し・憩いの場
- ⑨地域の新たな可能性の発見・創造
- ⑩情報発信源
- ⑪観光資源
- ⑫まちの品格、文化度の向上

★自然遺産と歴史遺産は、年月が経つほど価値が増す～絶対に価値が目減りしない資源

★「資源」は、人が磨いて「資産」

になる～自然や文化財は、ただ「ある」というだけでは価値がない、それらを大切に思い、磨き続け、語り続ける人達。(佐々木清文「東北の古い製鉄」より) いてこそ、自然や文化財が命を吹き込まれ、活き活きとして残る。

★遺跡はどれもオンリーワン

★遠い祖先との繋がり

600 年遡れば、まったく無縁な青森と鹿児島の人の間にも共通の祖先が存在する

★古代から、今と未来が見える！～古代人に語りかけ、問いかけ続ける

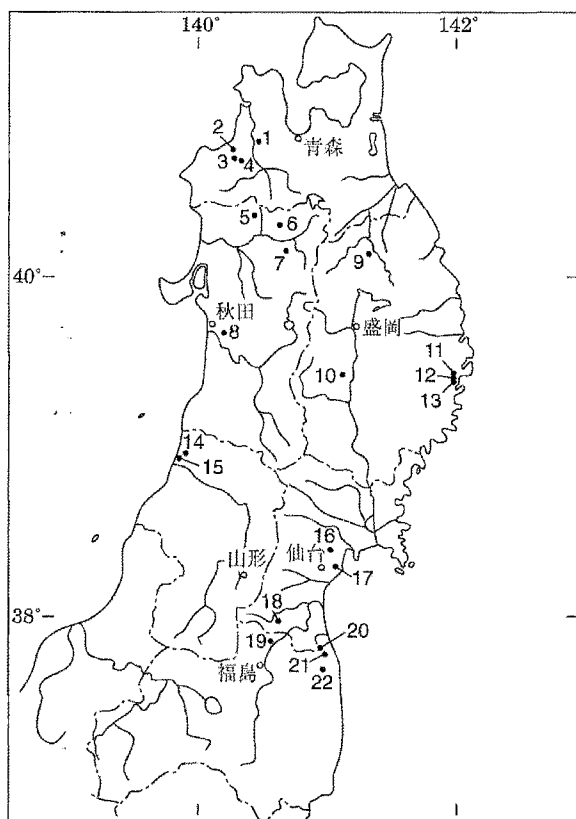


図1 東北地方の主な古代製鉄遺跡分布図.

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 狐野遺跡 | 12. 山ノ内Ⅱ遺跡 |
| 2. 杵沢遺跡 | 13. 山ノ内Ⅲ遺跡 |
| 3. 大館森山遺跡 | 14. 新青渡遺跡 |
| 4. 大平野Ⅲ遺跡 | 15. 豊原遺跡 |
| 5. 大館野遺跡 | 16. 山下遺跡 |
| 6. 白長根館Ⅰ遺跡 | 17. 柏木遺跡 |
| 7. 堪忍沢遺跡 | 18. 深谷遺跡 |
| 8. 坂の上Ⅴ遺跡 | 19. 山居遺跡 |
| 9. 大平遺跡 | 20. 金沢地区製鉄遺跡群 |
| 10. 大瀬川遺跡 | 21. 武井地区製鉄遺跡群 |
| 11. 上村遺跡 | 22. 唐神遺跡 |

《参考》 遺跡活用の事例紹介

1. 熊本県立装飾古墳館

①企画展「装飾古墳とデザイン

まる・さんかく・しかく～かたちが伝える古代の想い」

現代デザイナー集団「熊本デザインプロジェクト」が。気になった古墳壁画のモチーフを一点一点描き起こした作品の展覧会。2016年2月に東京 IID 世田谷ものづくり学校で開催された作品展を博物館で企画展として実施。

②壁画関連の体験学習

こだいくん体験～プラ板作り、缶バッジ作り、スタンプバッグ作り

2. 妻木晩田遺跡（鳥取県米子市・大山町） 国史跡

- ・弥生時代後期の集落と墳墓群～建物跡約 900 軒、墳墓 34 基
- ・遺跡の面積 156ha～全国最大級の弥生遺跡
- ・山陰特有の四隅突出型墳丘墓群と集落が初めてセットでみつかった

◆「むきばんだ応援団」（市民団体、1999 年発足）の活動～保存運動から遺跡活用へ

- ①市民講座「むきばんだやよい塾」 毎月 1 回 今年で 17 期 受講生 45 名
塾生有志で「妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会」を結成 約 40 名
毎日遺跡でガイド活動（冬季を除く）
県が主催するイベントや体験学習のサポート

遺跡周辺の植物観察「むきばんだを歩く会」 毎月 1 回 今年で 11 年目 会員 40 名

- ・毎月、撮影した写真で「むきばんだ花だより」を発行、情報発信
- ・毎年、むきばんだ植物カレンダーを作成
- ・10 周年記念に「むきばんだ花カルタ」を制作、小学校等は無償配布
- ・県が主催するイベントで、植物解説と草木染めのワークショップを実施

③その他

- ・適宜の講演会、シンポジウム、コンサート等の開催
- ・関連刊行物の出版
- ・むきばんだグッズの制作と販売
- ・遺跡ツアー ～ 国内、韓国

大條家ゆかりの茶室について

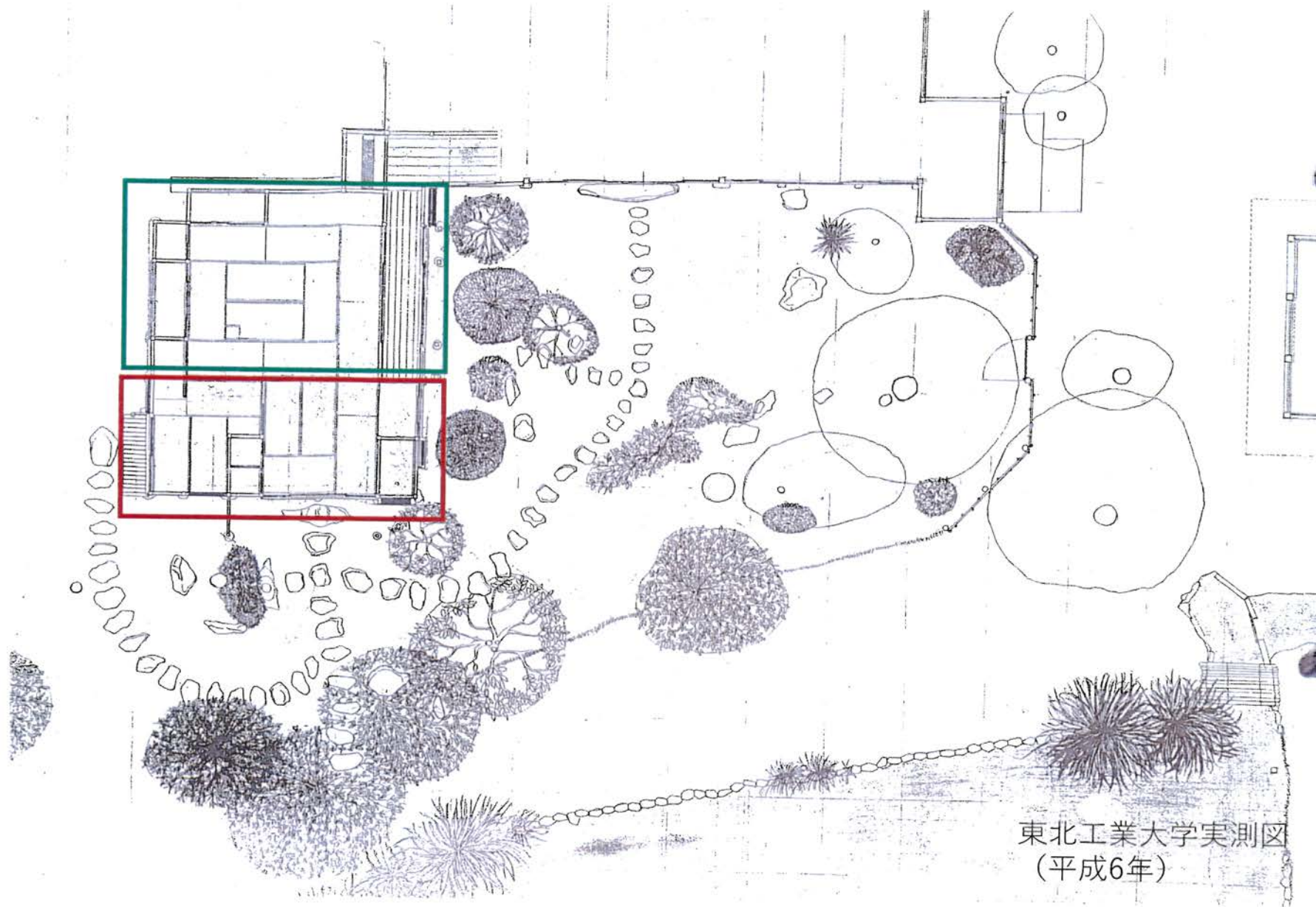
2016.11.19 山元町歴史勉強会
於 合戦原学堂

永井康雄（山形大学）



	「山元町史」昭和46, pp588-589	伊達宗行「翠雨山房夜話(上)」昭和63, p49	伊達忠敏「大條流伊達記録」昭和63, p22	
	藩祖政宗が豊臣秀吉から拝領した伏見城の遺構と言われている。	この茶室は政宗が秀吉の命で朝鮮渡海後、伏見に帰っていた時、名護屋城の大手門とともに秀吉から拝領		
	もとは仙台城二の丸にあった	(茶室は) 青葉城の本丸にあった。		
天保3(1832)	天保三年(一八三二)二月大條氏十五代で、当時国老の監物道直が十二代藩主龍山公齊宗から入料付きで拝領し、川内筋違橋の屋敷に移建した	(12代藩主伊達斉邦は) 天保3年(1832)、道直43才の時に茶室を与えている。藩費で大修理し、川内の大条邸に移設	天保三年(一八三二年)正月十一日奉行職仰せ付けられ、同二月藩主斉邦公の御前に於いて、御茶室拝領、御上の入料を以て、当屋敷内に御建て下さった。	
天保8(1837)				襖の下張り
天保12(1841)				襖把手墨書「天保十二年八月」の可能性が高い
明治21(1888)	明治二十一年(一八八八)支倉通りに	明治21年に支倉に移され、		
昭和7(1932)		昭和7年、支倉改築の時に坂元の三の丸に移され、今日に至っている。		
昭和17(1942)	昭和一七年(一九四二)ここに移された。			

[illegible]



東北工業大学実測図
(平成6年)



旧姉齒家茶室（残月亭）



建築年代：明治時代中期

松倉恂(初代仙台区長)が建て、その後、姉齒家の所有になり二度移築されている。松倉の日記によると、残月亭と命名するにあたり伊達家当主の許可を受けたという。

扁額は、正徳4年(1714)に5代藩主吉村が政宗の筆跡による扁額を摸刻したものを、明治27年に更に摸刻したもの。

一部に江戸時代にさかのぼる古材を使用。



有備館茶亭



建築年代：不詳

明治4年(1871)に北海道当別に開拓移住した岩出山伊達家
11代邦直が描いた絵図には茶亭が確認できる。

昭和46～53年に修理工事が行われた。



町指定文化財「大條家ゆかりの茶室」保存意義：

1) 文化財（由緒と建築物）としての価値と重要性

本茶室は、伊達家が秀吉より拝領したという伝承があり、後に大條氏が伊達家から下賜されて仙台北下の屋敷に移し、更に昭和7年に当町に移築されたという。藩祖政宗以来歴代藩主に重んじられた仙台北藩における茶の湯文化・歴史の流れを伝える茶室として文化財的価値は非常に高い。

建築物としては、様々な改築・増築の経緯があり、正確な築年代の特定にはさらなる検証を待つ必要があるものの、桃山時代の部材の存在の可能性も秘めており、随所に意匠を凝らした書院風茶室として数少ないすぐれた遺構と言える。

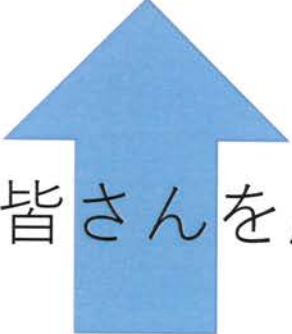
2) 東日本大震災での津波を免れた復興のシンボルとしての重要性

何より、山側にあったことで津波被害から免れて残った町の文化財であり、これからも町民にとっての誇り・宝として心の支えになることが期待される。

3) 町民の活用による町活性化の場としての重要性

従来のように地元の茶道愛好家や学校茶道の場として復活活用する以外にも、積極的な工夫活用で、新しいコミュニティーの場として復興に向けて歩むこれからの山元町全体の活性化にも大きく寄与できる。

ゆかりの茶室にひかりを当てるっちゃGO
山元「いっ茶」組



地元で頑張る皆さんを応援します！

「大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会」